

千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第44週 (10/26-11/1) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	44週	43週	42週	41週
小児科	18	18	18	16
眼科	5	5	5	3
インフルエンザ*	28	28	28	25
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	10/26-11/1	10/19-10/25	10/12-10/18	10/5-10/11	10/19-10/25
			44週	43週	42週	41週	43週
小児科	RSウイルス感染症		4 0.22	7 0.39	8 0.44	8 0.50	103 0.77
	咽頭結膜熱		1 0.06	0 0.00	1 0.06	3 0.19	27 0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	43 2.39	29 1.61	25 1.39	38 2.38	338 2.52
	感染性胃腸炎	○	70 3.89	56 3.11	52 2.89	45 2.81	445 3.32
	水痘		6 0.33	4 0.22	3 0.17	3 0.19	37 0.28
	手足口病		28 1.56	30 1.67	46 2.56	38 2.38	171 1.28
	伝染性紅斑		13 0.72	17 0.94	9 0.50	11 0.69	74 0.55
	突発性発しん		11 0.61	7 0.39	15 0.83	15 0.94	73 0.54
	百日咳		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	5 0.04
	ヘルパンギーナ		1 0.06	1 0.06	0 0.00	9 0.56	7 0.05
	流行性耳下腺炎		9 0.50	7 0.39	9 0.50	11 0.69	128 0.96
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	4 0.14	2 0.07	1 0.04	29 0.14
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	1 0.20	1 0.20	0 0.00	2 0.06
	流行性角結膜炎	↓	12 2.40	16 3.20	8 1.60	7 2.33	42 1.24
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	2 2.00	0 0.00	1 1.00	8 0.89
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1 1.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	腸管出血性大腸菌感染症	女性	40歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出	つつが虫病	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	70歳代	画像診断等	アメーバ赤痢	男性	60歳代	病原体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	-	-	-	-
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出	-	-	-	-

・結核5件(186)、腸管出血性大腸菌感染症1件(13)、つつが虫病1件(1)、アメーバ赤痢1件(8)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第44週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.39となった。過去10年の同時期と比べると最多。

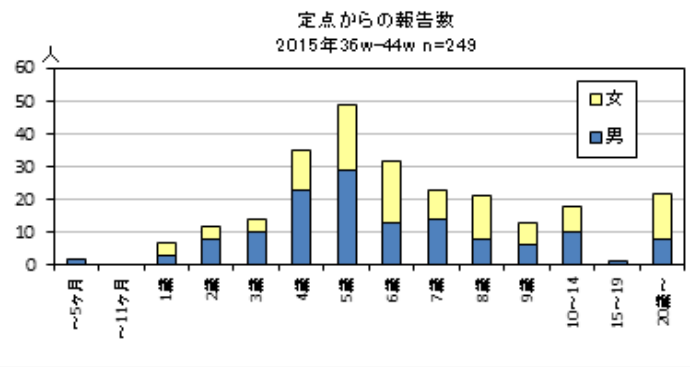
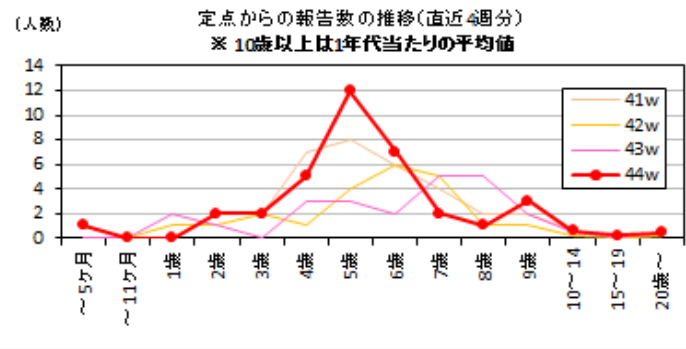
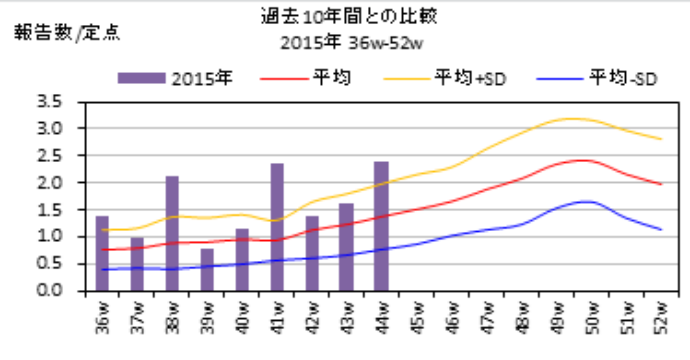
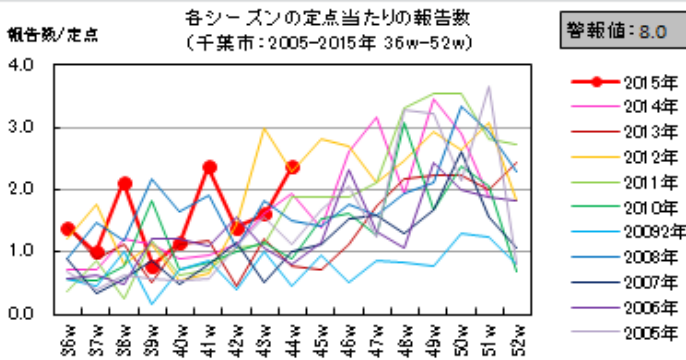
<感染性胃腸炎> 前週より増加し3.89となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ例年並み。これから流行シーズンなので感染防止に留意。

<流行性角結膜炎> 前週より減少し2.40となったが、過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

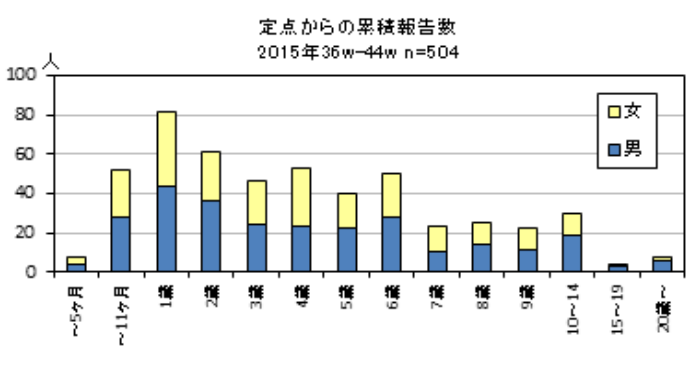
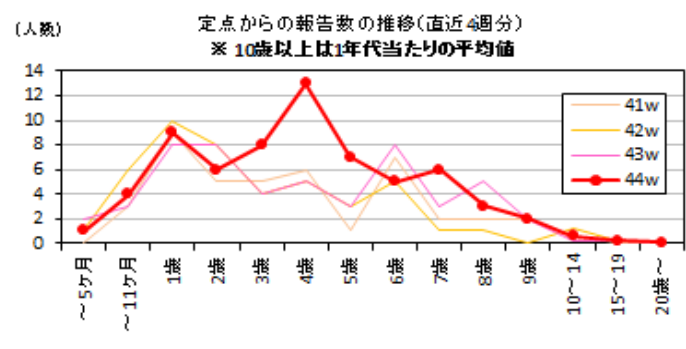
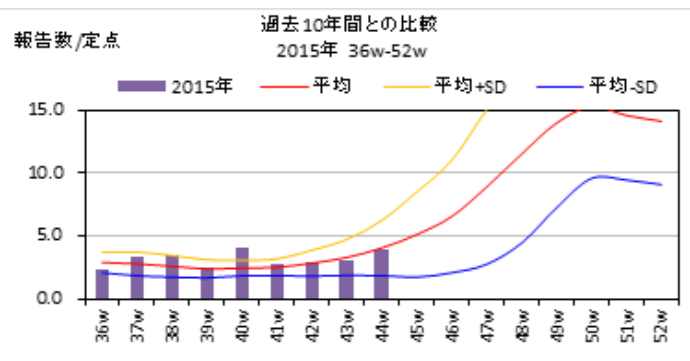
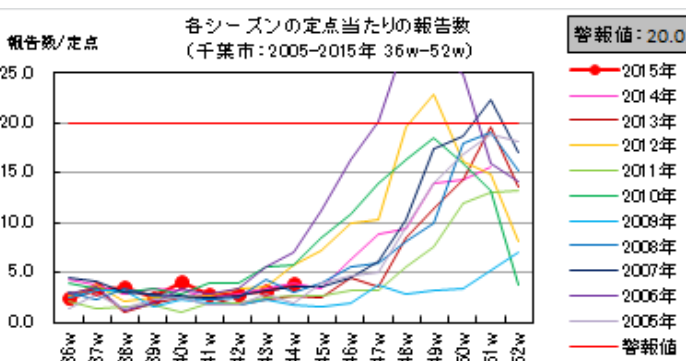
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第43週現在は、過去8年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、静岡県、鳥取県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第44週は前週より増加し2.39となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、緑区(6.25/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から第44週までの累積報告数(n=249)によると、性別では男性が54.2%(135名)、女性が45.8%(114名)で、年齢階級別では5歳(19.7%:49名)、4歳(14.1%:35名)、6歳(12.9%:32名)の順に多くなっています。



＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの第43週現在は、過去8年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、宮崎県、福井県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2015年第44週は前週より増加し3.89で、過去10年の同時期と比べるとほぼ例年並みとなっていますが、これから流行シーズンとなることから手洗いの励行など感染防止に留意してください。区別の発生状況は、若葉区(10.5/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。若葉区では昨年から連続して過去10年の平均+SDを上回る高い水準で推移しています。今シーズンである2015年第36週から第44週までの累積報告数(n=504)によると、性別では男性が54.0%(272名)、女性が46.0%(232名)で、年齢階級別では1歳(16.3%:82名)、2歳(12.1%:61名)、4歳(10.5%:53名)の順に多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルは第34週から過去8年の同時期と比べると最多の状態となっており、第43週現在も同様となっています。都道府県別では、宮崎県、鳥取県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第44週は前週より減少し2.40となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、美浜区(11.0/定点)で減少しましたが流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回ったままで最多となっており、同区の30歳代で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第44週までの累積報告数(n=171)によると、性別では男性が48.5%(83名)で女性が51.5%(88名)で、年齢階級別では30歳代(23.4%:40名)、40歳代(18.1%:31名)、20歳代及び50歳代(共に10.5%:18名)の順に多くなっています。

